

清  
馬  
札  
帽

震  
科  
大  
學

八  
田  
三  
郎

和  
合  
屋





大正  
八  
年  
九  
月  
五  
日

鋼商  
~~總~~勝本忠兵衛商店

大阪市西區南堀江通壹丁目

勝本忠兵衛

電話番號 西區一七六二番  
發電番號 (カッ) 又ハ(カ)  
振替口座 大阪四五〇五八番  
取引銀行 株式加島銀行南支店

大正十一年火中の事

おとすもこの暑熱の心

しつとあ家を出、各地に今

の暑熱を存格別として去る

日の如き、新了社事務此

のうつくし、て併し存候せん

の如き、實に肉に肉居る

の如き、此視上常相成る

者見、角井出氏の、存候

肝に、鋭し、鋭有、お申、此際

フン張、意地を、向し、此際

井出、此書、れを、け、上、二十、年、あり

三十、年、向、の、今、と、光、は、是、

懐、前、此、も、必、要、な、事、候、々

晴、本、此、の、子、孫、の、事

と、書、れ、を、形、ん、な、馬、鹿、

事、し、必、要、な、事、を、今、の、事



懐の爲に必要、可成り  
晴々、のり子孫の事  
と考へ、れを形したる爲に  
考へる必要も、今年迄  
實を申せば、先馬鹿な  
り、居ても、今年迄、何ら  
と徹し、譯し、不業、此  
カレンマ、これ、取り、申、林氏、  
切、打、明、節、七、光、淡、路、の、福  
氣、と、托、し、辞、職、せ、ん、か、と、も  
思、ひ、居、ん、が、今、思、ひ、一、と、も、  
筋、者、美、し、お、申、遣、一、申、の  
来、る、十、二、の、重、役、公、九、毛  
夫、れ、と、一、思、ひ、一、と、先、任、務、が  
お、居、ん、申、は、も、累、務、の、事、  
去、る、七、月、一、日、上、京、の、節、  
候、に、本、の、こ、の、先、と、先、の、事、  
考、へ、ら、合、社、の、成、立、に、  
考、へ、ら、合、社、の、成、立、に、  
考、へ、ら、合、社、の、成、立、に、

存心の厚く、

去る七月一日上京の節

他本、この午を先づ致し

貴社、会社の成長に親あし

され、御心と、この御心の

勸誘、たる株主、を申す

等々、と、世に、対し、又、社名

を、改し、御心、を、申す

は、際、之、節、の、常、務、を、選

び、て、を、御、心、に、お、申、す

君、と、僕、とは、一、身、に、罷、り

君、が、務、せば、僕、も、務、す、の

一、言、即、ち、己、の、感、

は、難、職、に、就、きた、る、御、心

が、社、成、立、の、著、の、コ、ト、を、

御、心、に、お、申、す、干、渉、し

わ、せ、し、一、切、お、申、す、節

を、し、め、御、心、に、お、申、す、は

わ、り、の、御、心、を、お、申、す、は



お生をーとーちるさうつる

きしめぬ有ーと能成りば

わりの人仕るをさ、ん免

能成りばありはーカ、ン、ン、

こ不台のかる馬のあま

しを物て其時をわ生とす

任と嫁し毎日と叱られ

役と勤め申いささめたるさ

言はぬと云ふ言はぬとさ

言つたと云ふ面腹はあ

さ不得は修年抱し

かをを比格的ヨタれ叱られても別し  
何故にせん奴がブツと云ふては様  
感いゝ位なれと

精勤ぬらゝをいひのあま

あれどぬほ所あひて家

神経衰弱した城一のあ

晴本定吉衛ヤセちんちん

枯れたりと笑も生束四十六

言つたは言つた

神孫... 賤者忠義衛中せ  
枯れたりと雖も生東國十六  
年言つたるは言つた  
言はぬるは言はぬの押  
し過し銀行を伸べ不及  
友人より相事候申  
出られ居る事所人との心  
末は書く言言せん一諾  
されば身命と堪へるも  
難せしむる旅の決心あり  
爲めに動し事業一歩停ん  
るにあり子孫の爲め討り  
株以外私財と提供せぬ  
るに一て是るにせむ  
たぐはふも藏りては  
しては棄ふと忠告あり  
本年四月六日



たゞば死に蔵せしむれば

しして仕舞ふと忠告あり

本年四月六日物類増上

車窓の隙に此の忠告あり

第一死に蔵せしむれば

あれを子孫に不道德

たうとせむ力に忠告受け

申し候し自らこゝに於ける

業に集加はる以上或程

此の犠牲を拂はざるは

らむるは實に後悔のど

あるも今とならばお金の

おみたる様主の申辭を

し様以外銀一文もなき

と相成り不申し先般林氏公

見の際様を見て度お方が

宜しと申し候ふお金の心中



二回 閣下 不申 川先 船村 氏 公

見の際 概と見え 二階 出方 可  
宜しと 申居らん 先生の 心中  
蒙る 洞家 ありと 比らる 義  
事 小 控 控 新 ぞ 似 合 先生 之  
辞 職 して 社 の ため 之 相 事  
屋 力 の 秘 決 心 して 之 以 成 成  
る 事 之 意 見 既 幸 申 居 らん  
は 此 一 覧 火 中 之 旨

山妻 先生 宛 申 居 下 之

九月 廿 日

山妻 先生

川 田 先生 宛 申 居 下 之